

■ 先行教材紹介

もし、あなたがよみかきできなかったら？ 駅員とお客の会話

準備するもの

「路線図」シート（日本語版とハングル版の2枚の路線図シートを外表であわせ、透明なクリアファイルなどにいれておく）（グループ数分）、タオル（グループ数分）、「言葉が通じない場合」ワークシート（下記。グループ数分）

すすめ方

参加者に、5～6人毎のグループをつくってもらい、駅員役とお客役の2つにわかれてもらう。その中からそれぞれ1人代表者を決めてもらい、「駅員は、お客が字を読めると思っている場合」「駅員は、お客が目が見えないとわかっている場合」「駅員とお客でまったく言葉が通じない場合」のロールプレイをする。振り返りでは特に駅員役の気持ちを丁寧に聞く。最後に、同和地区や在日コリアンの人の非識字の状況を説明し、吉田一子さんの「わたしの おかね なのに」を輪読する。（すすめ方の詳細は廣瀬さんの報告をご覧ください）。

ワークシート 言葉が通じない場合

あなたは「逆さま読みの国」から来た外国人です。

「ひばりがおかまで、きっぷいちまい ください」と言いたいのですが、逆さまに読んで駅員さんに切符をもらってください。

いさだく いまちい ふっき でま かおがりばひ

⇒この順で読んでください

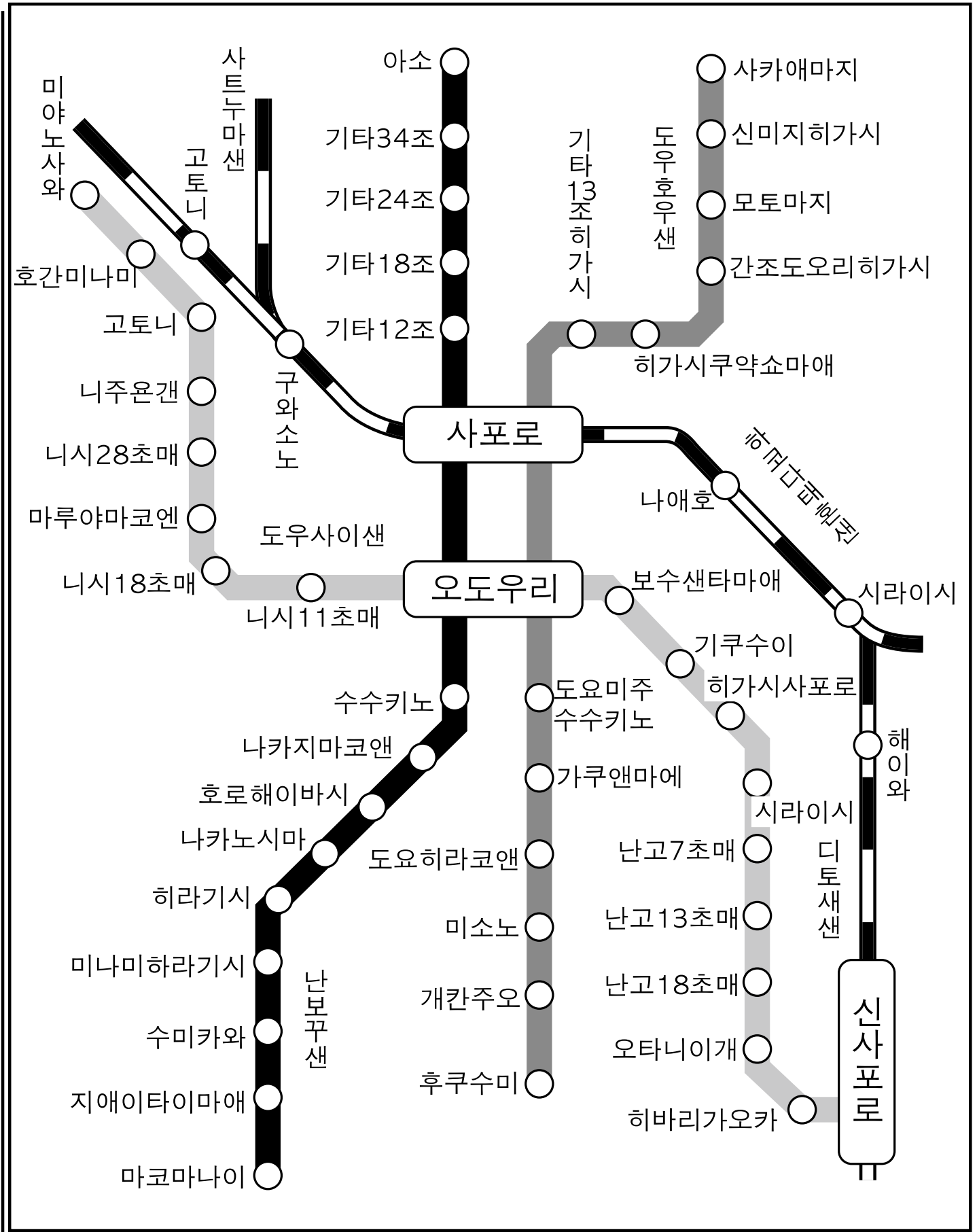
お客さんと駅員の会話

これは札幌市内の電車の路線図です。この路線図をつかってお客さんの質問に答え、行きたい駅まで案内してあげてください。ただし、お客さんにはこの面を絶対に見せてはいけません。また、あなたもお客さんの面を見てはいけません。



お客さんと駅員の会話

これはある町の電車の路線図です。裏面の駅員の面は日本語になっていますが、この面は路線図がハングル(韓国・朝鮮語)になっています。が、そのことを駅員に言ってはいけません。「(ハングルが)字が読めない」ということを駅員に言わずに、駅員に目的地までの行き方を教えてもらってください。もちろん、駅員の面を見てもいけません。



■「もし、あなたがよみがきできなかつたら？」資料

吉田一子さん「わたしの おかね なのに」

わたしの
おかね なのに
おとしし 一九九三年 四月二十日の
あさです。きょうは ぎんこうへ い
て、おかねを おうして こぼくては じ、
おきました。こうせいねんきんが 三まん
五せんえん はいっている はずです。そ
こから、三まんえん だけ おろしたいと

おきました。
そこに きんぐまに すんでいる むすめ
の 順子が やつて きました。これ さい
わいと、いつものように 順子に たのみま
した。
「きょう ぎんこうへ いくから、また が
みに かいて、
「ばんぼ だずんや。
「三まんえん。
「せう、いつも あざは、がりに いうて、

いそがしいのに、
おこりながら も 順子は かいて くれま
した。
それを もって、えきまへの ぎんこうに
いきました。まどぐちには わが おん
のひとが すわって いました。
「おねがい します。
と いうて、かみと つうちょうを わたし
ました。
すると、その おんねのひとは、ちよっと

かみを みて、まへの ほうを ゆびさしな
から、
「あそこにかみが ありますから、もうい
ちど かいてください。
と、かみを かえて きました。きんがく
の ところの ひが 二じゆうに なって
るから、おかねを だせないというのです。
わたしは あわてました。わたしは うま
れてから このかた、じいんの なまえを
かいて、ひとさまに さしたしたことなど

ただの いちども ありません。しきじが
きゅうで 吉田一子と なんども べんき
うは してきき けれど、ぎんこうの がみ
にかくような じしんは まるで ないの
でした。そこで おろろしなから、その
おんねのひとに、
「わたし、じい よう がかんから、あんな
ちよっと かいて ちよつだい。
と たのみました。けれども、おんねのひと
は、

「だめです。じいんて がかなくては、
と いうて、かいて くれません。わたしは
もう一ど、
「わたし、じい しらんから、これ、むすめ
にかいて もうせんや。せやから、あ
ん た、すまんけど かいて ちよつだい。
と、いっしょうけんめい たのみました。そ
れでも その おんねのひとは、
「だめです。じいんて がかなくては、
と いう ばかりです。

わたしは しがたがないので つうちょう
を ひたくて がかえらうと しましたが、
もうひとり おんねのひとが いたので も
う一か、たのんで みました。でも、その
ひとも いうつとは おなごでした。
わたしは おまかせ ぼやいて しまいま
した。
「じい しらんせんは じいんの おかねも
たされへんの人が。
くやしやう、つらやう、とても なぎ

けない おまいて かえて きました。
その日の ちよつが、順子の いえに い
って、あさの ことを はなしました。そし
て、
「あまえが、ちゃんと かいて くれんか
。だから、おかね だされへんかった。
と、おこりました。
すると 順子は、
「いまから ぎんこうに てんわ したる。

と、いって、アノを かけて くれました。
「もし、もし。」
どうやら、おとこのひとが、アてきたよ
うです。アノの、そばに、いたから、ぎん
このひとの、こえも、よく、きこえまし
た。順子は、あたしが、ほめたことを、い
ってから、
「じい、かかれへん、もんは、じいんの、お
かねも、だされへんの、ですか。」
と、おさりました。

ぎんこのひとが、
「いくら、だしに、こられたんですか。」
と、ききました。順子が、また、きついつ
て、
「そんな、もんを、いでは、ないです。おお
きな、きんがく、なら、かいて、くれ、ちい
さな、きんがく、なら、かいて、くれないの、で
すか。」
「もし、アの、かじゆ、を、しんたい、しよう
が、い、が、こられたら、どうするん、です

か。」
と、いいました。
ぎんこのひとが、
「きほんてき、には、...」
「きほんてき、には、...」
と、おぼこ、ことを、なんども、くりがえし
ています。
順子は、たまりかた、ように、
「この、よの、な、か、じい、かける、ひと、ば
かり、と、ちがう、です。あた、く、み、たい

な、ぎんこの、な、う、よ、けい、に、で、ん、げん、が
く、し、ゆ、う、して、いる、と、おも、う、て、ま、した、わ。
と、い、い、ま、し、た。
この、やり、とり、を、き、い、て、い、て、わ、た、し、は
ま、う、な、さ、け、な、く、て、な、さ、け、な、く、て、
「もう、いい、もう、いい、順ちゃん。」
と、い、い、て、と、め、ま、し、た。
順子は、
「し、ぎ、じ、へ、三、ね、ん、を、い、つ、て、ア、と、こ、ろ、を
な、ま、え、も、か、け、ん、て、どう、す、ん、の、ほん、ま

に、く、や、し、い、め、に、あ、わ、ん、と、ほ、ん、ぎ、に
か、れ、へ、ん、の、や、が、ら。」
と、こ、ん、ど、は、わ、た、し、に、お、こ、り、ま、す。
それから、わたしは、むらの、むらに、い
き、か、え、り、に、ま、た、順、子、の、い、え、に、よ、り
ま、し、た。そ、し、た、ら、む、ら、が、か、え、て、い、て、
「あ、あ、ち、ん、ぎ、ん、こ、う、か、ら、ア、ノ、が
か、つ、て、ま、だ、ア、に、か、あ、た、ん、か。」
と、き、き、ま、し、た。ぎ、ん、こ、う、の、ひ、と、も、や、
ば、り、し、ん、ば、い、し、て、く、れ、て、い、る、の、だ、な、と

おも、い、ま、し、た。
「じ、を、なん、に、も、し、ら、な、か、つ、た、と、き、は、
「ああ、そんな、もん、か」と、あ、き、ら、め、て
い、ま、し、た、が、し、ぎ、じ、で、す、こ、し、ひ、ろ、が、な、だ
け、ア、も、よ、み、か、き、が、ア、き、る、よ、う、に、な、た
い、ま、は、く、や、し、く、ア、く、や、し、く、て、な、り、ま、せ
ん。も、と、も、と、べ、ん、ぎ、き、う、し、て、な、ま
え、と、と、こ、ろ、ど、う、い、は、か、ん、じ、で、か、け、る
よ、う、に、な、り、た、い、と、おも、い、ま、し、た。

あ、く、る、日、こ、ん、な、おも、い、は、も、う、し、た
く、な、い、と、おも、い、な、が、ら、順、子、と、い、っ、し、よ
に、き、の、う、の、こ、と、を、日、き、に、か、き、ま、し、た。
その、つ、ぎ、の、日、は、木、よ、う、日、で、し、ぎ、じ
が、き、ゆ、う、の、日、です。わ、た、し、は、こ、の、日
き、を、も、て、と、こ、ろ、と、な、ま、え、の、ア、ノ、ん
を、か、い、て、も、ら、い、ま、し、た。
豊、田、村、が、一、町、丁、目、の、の
吉、田、一、子
その、日、が、ら、なん、ど、も、なん、ど、も、け、い、つ

ま、し、た。え、ん、び、つ、で、お、お、き、く、か、い、た、り、
ち、い、さ、く、か、い、た、り、ホ、ー、ル、ペ、ン、で、か、い、た
り、も、う、な、ん、か、い、か、い、た、か、わ、か、り、ま、せ
ん。し、ぎ、じ、が、き、ゆ、う、へ、い、く、と、ま、さ、き
に、さ、れ、を、け、い、し、ま、し、た。そ、れ、で、も、ま
だ、と、こ、ろ、が、な、か、な、か、か、け、ま、せ、ん。す、く
つ、ま、ア、て、し、ま、い、ま、す。ア、ノ、を、み、な、い、て
か、け、る、よ、う、に、ま、だ、ま、だ、け、い、こ、と、な、く、ア、は
な、り、ま、せ、ん。

それを せんせいに みせると、せんせい
は、「これを もとにして、もう一ど ほくと
いっしょに かいて いきましょう。」
と いわれました。そうして かきはじめた
のが この ぶんしょうです。
これを かく ときが、一ばん たのしく
なりました。
この ぶんしょうは、じぶんが かみに
なまえと きんがくを かいて、おかねが

こうしの せんせい、
「この くやしさを、つらくて もうひと
くわしく かいて おきましょう。」
と いわれました。
そこで また、順子に はなしして、ちよ
つとくわしく かいて もらいました。そ
れから、ひがしおあきかに いる 順子の
いもうとの 節子にも はなしして、節子に
も かいて もらいました。日き よりは
うんと なかく なりました。

だせた 日まで つづけましょう。その日
のことを かいて、この ぶんしょうを
おわりに しましょう。」
と、せんせい、はなれども いわれます。わ
たしも、そうしたいとおもいました。
としが かわって 三月二日の あさで
す。四月八日から 一しゅうかん、四こく
におまいりに いくので、十まんえん だ
さなければ なりません。

こんどこそ、じぶんが かみに かいて、
きんこうで おかねを おろして こようと
おもいました。
けれど、また 「まちがってる」と いわ
れないが しんばい、です。それで や、ぱり
順子にも かいて もらいました。もし、わ
たしの かいたので とおらなが、たら、順
子に かいて もら。たのを だそうと お
もったのです。
一ねん ががって やつと ためた 十ま

んえんです。これで おろして もらえるや
ろか、しんばい、しながら、ボールペンに
しかり ちがらを こめて かきました。
それを もて、きんこうの まどぐちに
いき、おそろおそろ、
「きょう、はじめて かいて きたんやけど、
これで いけますか。」
と、いって、つうちょうと わたしがか
いた ほうの かみを さしたしました。
まどぐちの おんがのひとは、にっこり

して、
「いけますよ。」
と、いって くれました。ほ。としました
が、まだ しんばい、です。
しばらく まえに た、ていると、
「吉田さん。」
と、よんで くれて、十まんえんとい、し
よに つうちょうを かえて くれました。
うまれて はじめて、わたしの かいた
じ、で、おかねが だせたのです。うれしく

て うれしく、なみだが できてきました。
あくる日の あさ、順子がきたので、
「きのう、わたしが かいた かみて、おか
ね だして きたぞ。」
と、はなしました。順子は
「よか、たなあ。」
と、よろこんで くれました。
その 日は、しきが、きんこうの 日 だ
した。みんなに、

「きのう、じぶんの じいて、おかね、おろ
して きたぞ。」
と、ほうこく しました。みんなが、
「よか、たなあ。きょう だいじょうぶや。」
と、ほけまして くれました。
これで、やつと この ぶんしょうを お
わりにする ことが できました。
(一九九四年 三月三十一日)